

アール・ブリュットの総合的な振興について

【提案先】 文部科学省、厚生労働省

1. 提案内容

(1) アール・ブリュットを日本らしい文化芸術として発信

- 2020年(平成32年)東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本文化の海外発信を強化される中で、世界からも注目されているアール・ブリュットを文化プログラムのひとつに位置付け、地方と連携した取組を推進

(2) 人材の育成および調査研究の継続実施

- 美術学芸員等に対する研修の充実、大学での調査研究等による作品評価および評価手法の開発促進
- 継続して作品調査がされるよう戦略的文化芸術創造推進事業の充実・発展

(3) 我が国のアール・ブリュット振興拠点づくり

- 障害者の芸術活動支援の施策を礎に、総合的な支援拠点が形成されるよう更なる取組の推進

2. 提案の理由

- 東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、日本の風土、歴史、芸術など多彩な文化を効果的に世界に発信していくべき。

特に、支援者により見出されるアール・ブリュットは、その芸術性はもとより、日本人の「思いやりの心」を伝えるものとして、リオデジャネイロオリンピック後に展開される文化プログラムに位置づけ、国において地域と連携した取組を進められたい。

- 本県ではこれまでからアール・ブリュットの魅力発信、ネットワークづくりの取組を進めており、平成26年度から国においてそれぞれ取り組まれている障害者の芸術作品の調査(文化庁)、作家や造形活動を行う福祉施設等を支援する拠点づくり(厚生労働省)等においては、制作、発掘、収集、展示、発信、保管等の各段階で切れ目ない支援がされるよう、広域の総合的な拠点形成に向けた更なる取組を進められたい。

(本県の取組状況)

- (1) 滋賀県内では、糸賀一雄氏をはじめとする先人たちの努力により、1940年代から福祉施設等で障害のある人の造形活動を実施。
- (2) 平成16年度には、近江八幡市に障害者の絵画、陶芸などの表現に芸術性を見だし、作品の発掘・展示・保存を先駆的に行う、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAが開館。
- (3) NO-MAが日本側事務局を担った「アール・ブリュット・ジャポネ」展（平成22年3月から平成23年1月にかけてパリ市立アル・サン・ピエール美術館で開催）は、新しい日本文化を発見するものとして高い評価を受けた。

本県のアール・ブリュット振興

【ネットワークづくり】

- ・平成25年2月10日、本県からの呼びかけでアール・ブリュットを支える環境の底上げを図るため、全国規模のネットワーク組織が発足し、今年8月31日現在で既に650の団体や個人が参加。



アール・ブリュットネットワークフォーラム 2014
(平成26年2月8日・滋賀県大津市)

- ・ネットワークの更なる拡大に向け、情報発信（メールマガジンの発行）、会員間の交流促進（交流会、フォーラムの開催）を実施。

【アール・ブリュットの魅力発信】

- ・ガイドブックの発行やトークイベントの開催、県立施設や旅館での作品の常設展示を実施。
- ・アール・ブリュットの発信拠点となる美術館を整備（平成30～31年開館予定）。
- ・平成24年度より県立近代美術館においてアール・ブリュット分野の担当学芸員を雇用。本年度は、ギャラリー展を開催予定。

【障害者の造形活動の推進】

- ・障害のある人やその家族、福祉施設等からの造形活動に関する様々な相談に応じ、情報を提供する障害者造形活動支援センターの運営を支援。
- ・発表機会を拡充し造形活動の裾野を広げるため、障害者アート公募展を開催。
- ・ボーダレス・アートミュージアムNO-MAの活動を支援。